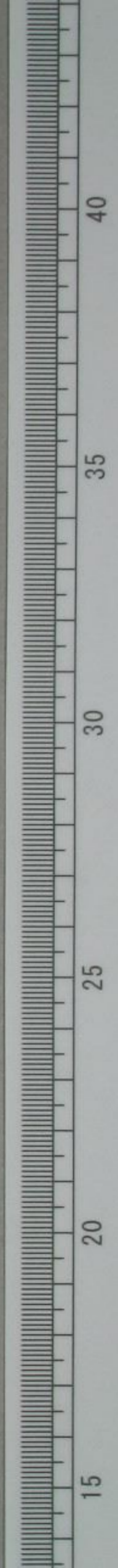




名家手簡  
五集  
下

P  
518  
10

逍遙文庫  
文庫6  
1412  
10



SIN  
01



土肥



名元成字九仲祿源四郎東都人白石門人  
寶曆七年没

達原堂藏

新部下浩權一區  
新部留具一區  
海山也各在東江原由是  
一

お月亦甲一書一  
うらなまはたはた



一之師白石碑坊  
此碑之設非徒以  
後車之寺也  
名碑之遺蹟  
何之也  
石之氣也  
碑坊之  
家坊之  
家坊之

白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也  
白石之氣也

桂山彩巖

工了少 桂山彩巖

南樓之山 桂山

桂山彩巖

名義樹字君華別号天水漁者称三郎古所門江戸人  
林整宇門人仕 大府寛延二年七十二没 達原堂藏

与心 歌年未過 海山出目玉

少島 子年 湖名 嘉徳 年頃

古寺 之 休之 出有 折之 年頃

一入 及之 年頃 止亦 嘉徳

一 筆 破之 仕 時 家 名

越克敏 後 粉 年 抄之 年頃

此法清安以手好修

此法清安以手好修

先以王甚化二首書後

此法清安以手好修

此下係田氏分抄法也

此法清安以手好修

為子之心要健聰明

不書法至統仕以出詩律

之清新雅練至今不類

感極且抄又為中書卷

之りりりりりりりりり

音心向此再詳以離地

小技却。及整頓。以

主括。義。海。內。盛。名。

今。更。不。及。聲。說。書。方。

終。身。均。有。修。業。名。在。

修。通。江。外。故。湖。玄。泰。

以。學。仕。名。只。一。再。和。步。調。

文。字。自。此。下。仕。知。計。官。職。書。

之。公。用。亦。好。道。來。其。年。後。

林。涼。夜。夜。苦。詞。亦。又。三。州。矣。

洪。先。主。章。一。出。札。中。迷。

夜も明かすに思惟講云

桂山居士

六月廿四日

善持

安積老牛抄

澁井大室

名孝徳字子章稱平丸衛門江戸人井蘭臺門人  
仕佐倉疾天明八年六十九没

阿彌陀佛  
何んぞか  
月  
一  
山  
山  
了





七十一のくはれしるをいれむ  
 けしきりしあはれしるをいれむ  
 主しきりしあはれしるをいれむ  
 心惟  
 以井  
 之  
 之

村井琴山

名椿壽字大年一号原診所主人肥後熊本疾醫官  
 吉益東洞門人文化十二年八月三没

今  
 志河  
 物

忘孩子心掛  
着同感  
吃不少  
早自練

今口分  
如以能會按  
持  
今之文人

侍上出来たり  
俗物を去る者  
し由るは感  
侍一向百成

出するは立  
心外友に  
かたき世より  
り相取

秋之夜十如之

也、牧子

板井清庵村共修

佐、十竹

初授妙心寺為僧名祖淳後歸儒改名宗淳  
字子朴稱介三郎仕水府元禄十一年五十九没

了書致修之、宗部方事

亦用始九指下、御被

露、今、事、

一大事平、方、台、中、成、

嘉福



京都府京都市

中村新八

正月

日

申村新八

九

細井平洲

名徳民字世馨又号如来山人称基三郎尾州人仕園侯享和元年七十四没

九江藏

平洲之筆  
如來山人  
世馨之書  
享和元年  
七月十四日

のこ集り海邊  
傷るるるにむす  
けのつれさゆ  
しんせきさか  
しんせきさか  
うるまじい

きんせき

きんせき

きんせき

かきんせき



十時梅屋

名賜字子羽別号殿亭清夢軒称半藏浪華人仕  
長島侯文化元年七十三没

一 昔の好むは侍者も亦  
少なきは心も亦なきは  
流るる心も亦なきは  
るる心も亦なきは  
一 葉解つて葉も亦なきは  
牙根去るも亦なきは

少なきは

一 昔の好むは侍者も亦  
少なきは心も亦なきは  
流るる心も亦なきは  
るる心も亦なきは  
一 葉解つて葉も亦なきは  
牙根去るも亦なきは

抱鶴多しおろし海濱に

たのしみありちりりたす

みりくれば

ありありし方ら梅の

皆の

初夢し花は

ちりり

よほのほりりりりり

詩へもいぬ

傷をいへいなる病をいへ

其南より北に絶えて

そよよ

あゝあゝし中候し

りり熱知り

るるし

帰るるし

いりり

いりり

少使委伴し心は海客  
 可し 草 十  
 草 十  
 中茶中候

関南樓

名其寧字子永称源藏本姓横山為鳳岡義子  
 寛政十二年六十八没

家藏

以之の礎上は天  
 新なるをわらふ  
 山ありてふを

トのうにハラス  
アムカニハシ  
クハシハシハシ  
ハシハシハシハシ  
ハシハシハシハシ

ハシハシハシハシ  
ハシハシハシハシ  
ハシハシハシハシ  
ハシハシハシハシ  
ハシハシハシハシ

八月廿七日

梅溪先生家書

二六

松山天燒

名敬和字伯義林源藏始学九卓凌学三王  
天明三年辛酉八漫

全

手自寫之書  
月之友也此  
知之所安也  
月之友也此  
月之友也此  
月之友也此

廿二日  
廿三日  
廿四日  
廿五日  
廿六日  
廿七日  
廿八日  
廿九日  
三十日

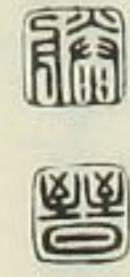
正月廿六日  
松山深野

余嘗聚今古名人書牘者廿餘年  
於茲矣篋中所積殆至數十百通  
但其書率皆取膠黏通洋同不過  
施之於家人朋友之際是以其用筆  
叙事不必用意而逸氣縱橫奇愛  
乃出使人想見名人素字尚懷於  
紙百末之後為兩忘下書燈前時  
展而閱之亦排悶遣愁之一助也遂

手親獲約上諸木以貽同好嗚呼  
是亦不藝林一粟事哉

天保十二年辛丑石榴花開月

書之雪心晉識



書中係交游中所獲也

銀之姓氏以別家藏

雪心後

金華吳全公...

山内昇  
赤日溪寺六

早稲田大学図書館

011688994340